

大阪初の非核平和宣言都市で記念植樹

濱住事務局長が枚方市長らと



▶ 左から伏見市長、濱住事務局長、彦前氏

10月24日、日本被団協の濱住治郎事務局長が大阪府枚方市で講演し、会場の枚方市総合文化芸術センターで伏見隆枚方市長らとともに桜の記念植樹に臨みました。

主催は同市の一般財団法人国際芸術文化アカデミー（代表：彦前清吾氏）で、終戦80年に合わせ被団協のノーベル平和賞受賞を記念する「ひらかた平和講演会」を企画。記念植樹のためシダレザクラの苗を枚方市に寄付しました。

枚方市は1982年に大阪府の自治体で初めて非核平和都市を宣言するなど平和施策を市政の基本理念とするまちづくりを進め、1989年には3月1日を「枚方市平和の日」に制定しました。枚方にあった旧陸軍施設の火薬庫が1939年3月1日に爆発事故を起こし、多くの死傷者が出て悲劇を後世に伝えようと定めたもので、ビキニ水爆実験で第五福竜丸が被ばくした日と同じであることにも因んでいます。

「原爆は悪魔の兵器」と題した濱住事務局長の講演では、胎内被爆の実態や被団協の活動について聴き入った参加者約140人から「被団協のことを知らなすぎた」「語ること、行動することの力を感じた（59歳）」「核のない世界のためにどう行動できるか考えたい（19歳学生）」などの感想が寄せられ、植樹式終了後も多くの方が濱住事務局長に握手を求めていました。彦前氏は「核廃絶を願う枚方市と被団協との交流がかなった。その証となる桜が咲くのが待ち遠しい」と感無量の様子で、濱住事務局長は「被団協として記念植樹は初めて。社会教育の分野で有名な『枚方テーゼ』のまちに我々の活動を伝えることができてうれしい」と終始笑顔でした。